第62回東海財界倶楽部例会を開催

泌尿器科が語る ～生涯現役で活躍する術～

開催日：2025年2月27日　開催場所：アイリス愛知2F　大会議室コスモス

弊社主催の異業種交流会「東海財界倶楽部例会」が2月27日、名古屋中区丸の内のアイリス愛知で開催された。例会は今年初めてで、通算62回目。講師は名古屋市立大学理事長の郡（こおり）健二郎氏。郡氏は大阪大学医学部を卒業、名市大の学長などを歴任し、今年までに同大医学部付属の6病院、総病床数2,223床へと、国公立大学として最大級の付属病院群を誕生させるため辣腕を振るった。この日、郡氏は超高齢化社会の医療についてユーモアを交えて熱弁。参加者は自身や身内の健康に置き換えて熱心に耳を傾けていた。

名古屋市立大学理事長 郡 健二郎 氏

郡氏は「泌尿器科が語る　生涯現役で活躍する術」をテーマに，まず、昨年の100歳以上高齢者が9万5,000人以上に達し、自身も団塊の世代として同世代が100歳となる25年後には100歳以上は50万人に増える、と推計。「健康で長生きするためには予防（個人・社会）と治療（医療従事者）が両輪になるとした。誰でもできる予防法は「喫煙」「食塩」を控え、「運動」などをして「ストレス」を抱え込まないことだとして、特に喫煙と食塩は死因の60％を占めると注意を促した。郡家は長生きの家系といい、2匹の飼い猫が26歳、21歳と人間なら100歳の長寿猫とユーモアたっぷりに話した後、名医の見分け方を伝授。

郡氏は17世紀の外科医の父とされる、フランス人医師、パレの言葉を引用。「『医師は、時に治すことができる。しばしば和らげることができる。いつでも慰めることはできる。医学はいつでもできることを放棄し、時にしかできないことに集中している』とパレは言っています。この言葉は奥が深い。名医とは謙虚さと慈しみの心を持つ医師のことです」「ヒポクラテスの紀元前4世紀の言葉は、功名心で医療をしてはならない、というものです」と手術の技術論の話か、との聴衆の憶測を覆す展開ながら、医療の核心に触れる“郡節”に参加者は盛んにうなずいていた。

続いて、郡氏は泌尿科医として高齢者の多くが日常的に悩んでいる排尿症状を説明。トイレで起こる現象について、残尿感、尿線途絶、尿勢低下、腹圧排尿、排尿遅延があり、腹圧排尿はおなかに力を入れないと、おしっこができない状態のこと。トイレの前に起こる症状を昼間頻尿、尿意圧迫感、夜間頻尿に分けて説明。尿漏れ（尿失禁）については「骨盤底筋が弛緩して膀胱や尿道の位置が下がっているために起こります。骨盤底筋の筋力をつける訓練法として膣、肛門を意識して締めたり、緩める体操があります。これによって腹圧性尿失禁を改善することができます」と対処法を示した。

また、多くの高齢者が悩む夜間頻尿について郡氏は「私もそうなんですが」と親しみをこめて語り、アルコールは寝る3時間前に控える、腎機能・高血圧がないか調べる、下肢を冷やさない、寝る3時間前に下肢を上げる。など夜間の利尿を減らす対処法を挙げ、参加者の中にはスマホでパワーポイントを撮影する姿も見られた。

高齢の男性なら気にかかるのが前立腺の状態。郡氏は前立腺がんの発症頻度、死亡率が増えているといい、「PSA（前立腺特異抗原）検査を必ず受けること。早期発見で大半は治ります。治療はロボットなど先端的で非侵襲になっています。PSA値を上昇させる因子は尿路感染症、尿道へのカテーテル挿入、自転車のペダルなどにより刺激や性交渉後などで、低下させる薬は抗アンドロゲン薬などがあります」とした。

最後に郡氏は来年6月には、現在の附属病院横に全国1位の規模（約27,600㎡）の救急災害医療センターもオープン予定で、Eステーションの新設、災害時のライフラインの充実など全国屈指の救急災害医療体制を整えると紹介し「皆さんは100歳、いやそれ以上お元気で活躍いただき、明るい社会、愛ある社会を築いてください」と講演を締めくくった。

講演後、参加者からの質問を受ける郡氏